

街かど

●募集しています

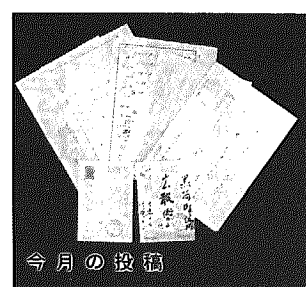
- 短歌
- 俳句
- 詩
- 随筆
- イラスト
- 写真
- まんが
- その他

●町への意見や要望も受け付けます

●文章は苦手というかたは連絡を取材に行きます

●匿名もよいです

●投稿・連絡先は
黒崎町大野 2843-1
広報「街かど」係
☎ 377-3101



今月の投稿

短歌

黒崎短歌会

エンジン響かせ朝を帰る来る鮭
とり舟か漁のありなん 柴垣 きみ

ねぎらいの声をかければ収穫の大
根片手に笑顔向けたら 鷺尾 隼角

五十にて逝きたるままの姿せる母
に逢いたり昼寝の夢に 長谷川トリ

空澄みて菊の香りの芳しく即位
の齊庭に玉砂利の音 山田 卯八

早朝に訪い来し人の靴ありて寺の
内より香のただよう 阿部 淨子

米作り一すじに生きて七十年穂孕
む稲を刈らねばならぬ 笠原 セツ

干し上れば大根よき日に取りに来
よ漬け方詳しく記しておく故 大矢 キイ

孫のズボン干しつと思ついとほし
み子守せし日の昨日の如し 大谷 モト

黄金色の玉実を幾つ葉の間に下
げし銀杏庭にはなやぐ 泉井 ヨ子

俳句

黒崎俳句会

焼け出されし昨年の年の瀬思われ
て今年は無事をひたすら祈る 永田 キヨイ

障子張りしながら思ふ来年は老の
身なれば如何にあるらん 渡辺 ウタ

師の訃報ききて落葉を踏み行けば
夕陽は淡く我をさしおり 小出美香子

おりおりに通る踏切りの地蔵さま
濁める供花を見たることなし 伊藤 一男

雪踏みてまぶしく光る野路に來て
遠山の向う湖水の渦波 永田 和子

焼芋の笛流れ来る橋の上
着物着て飛び廻る子やお元日 正二

冬川の流れにきしむ舳い船 ひとり

コーヒーの湯気に曇りし雪の窓
エプロンをたたみて妻の初鏡 多佳

病院の壁に忘れし古曆 もと

メガホンの呼び声遠し慈善鍋 睦治

亡夫の香残るマフラー温し みよし

野仏の雪となりたる笠を替え よしお

泣き初めを皆喜びて笑ひけり 代香

初風に松馬かたこと鳴りにけり としお

生かされて生きる喜び初明り しげ

シートベルトしかと直して初出勤 文雄

幼名で吾れを呼びたる冬帽子 みい

白梅のはころびみくじ結ばれし 静水

オリオンのきらきら光る夜となる
逆さまに吊す塩鮭口開けて 敏郎

冬薔薇最後の紅を落しけり 史子

葉の裏に花下きに冬椿 ミツ

枯山のうす墨色の尾根つらね 義男

書き終えし管状区分けて束ねけり 智恵

三世同居のころの茎の石 一翠

初殺のやまを抜けるし野鼠の穴 北魚

冬座敷から白檀のかほり来る 素明

越後路のハサ木を照らす人日かな 佐藤 キン

年賀状受箱重き音生まる 小林とし松

雪の朝見渡すかぎり清らなり 小林 くに

黒崎出身の直木賞作家・鷺尾雨工の本が出ています

鷺尾雨工という作家をご存じでしょうか。昭和十年作の『吉野朝太郎記』で、第二回直木賞を受賞した作家です。この鷺尾雨工という作家、本名を鷺尾浩といい、一八九九

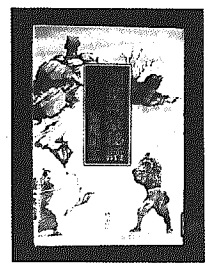
二(明治二十五)年に黒鳥村(現在の黒崎町黒鳥)で生まれました。さて、受賞作である『吉野朝太郎記』ですが、これが文庫本で出ました(全五巻、富士見書房時代小説文庫。一月までに三巻が出ています)。NHKの今年の大河ドラマは『太平記』ですが、これに合わせた出版のようです。また『剣聖剣豪秘話』とい



う短編時代小説集も出版され、これは町立図書館に入っています(読書房刊)。こちらは宮本武蔵、塚原卜伝など剣聖剣豪と言われた人たちについて、史実に基づいて書かれたものです。この『剣聖剣豪秘話』の尾崎秀樹氏による解説によれば、鷺尾雨工は「史実をふまえ、

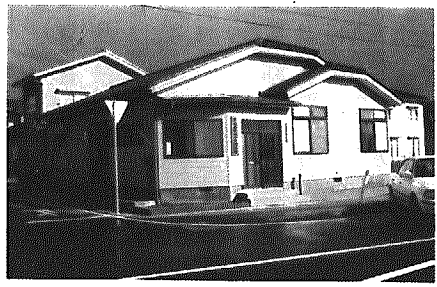
ガッシリした骨格のなかには、重厚な歴史観と人間理解を凝らした作家だった」ということとです。『新潟県大百科事典』(新潟日報社)によれば、鷺尾雨工は「早稲田大学卒業後、雑誌・新聞記者などをした。かわら雨工の筆名作家活動を行い、一九三五年(昭和十)文

芸春秋者が直木賞を創設すると、その年の川口松太郎に次いで『吉野朝太郎記』で受賞し、大衆文学作家として一躍文名を高めた。(中略)一九五一年一月九日小千谷で死去。五十八歳」とあります。



寺地西団地分館が完成

県住宅供給公社が建設を進めている寺地西団地へは新しい住民の皆さんが続々と入居しており、今年4月には、59番目の自治会「寺地西団地」が誕生する予定です。ここの地域活動の拠点となる「寺地西団地分館」が完成、昨年12月23日に竣工式が行われました。



この「寺地西団地分館」は、木造平屋建てで総床面積117.35平方メートル。24畳と12畳の和室が1室ずつに厨房とトイレがあります。建設費は1350万円で、25%の337万5千円を町が補助し、残りは入居予定者も含めた西団地住民114世帯の自己負担によるものです。総工費は1350万円

町政 Q & A

町政に対する疑問にお応えします。

Q 一月一日発行の「広報くろさき」(三二八号)に掲載されておりました浅妻町長の「新年のあいさつ」を読ませていただきました。浅妻町長は、この「あいさつ」のなかで「立仏地区の養豚団地も解決のメドがつかました」とのべておられます。そこでお願いがあります。と申しますのは、「養豚団地も解決」とはどういうことなのか。「メドがつかました」とはどういうことなのか。その内容等について、もう少し具体的に、わかりやすく、「広報くろさき」を通じてお知らせ願いたい、ということでありませぬ。

わたくしは「養豚団地問題」が多くの町民の利益となる方向・方法によって、一日も早く解決されることに賛成であります。(以下略) (山田 校並金蔵)

●二業者は平成二年十二月中に撤退
●一業者は平成三年九月中に撤退
●一業者は平成七年中に撤退

平成七年に撤退される業者は、その間、施設運営について迷惑をかけないように、御努力されることとなります。(農政課)

Q 近隣の市町村では休日当番医制度があり、広報などでお知らせしていますが、黒崎町ではそうした制度がないのか、広報に載っていません。そうした制度は黒崎町ではないのですか。ないのでしたら、ぜひご一考をお願いします。

A 黒崎町内では休日当番医制度は実施していません。しかし、緊急に医療が必要な場合は、119番通報で救急車により、最寄りの救急病院へ運びます。また、救急車を呼ぶまでもないが、というかたには、消防署では新潟市医師会の休日診療センター(新潟市白山浦二丁目、県立商業高校裏 ☎025-231-4135)、あるいは新潟市内の休日当番医院を紹介しています。なお、今年7月、寺地に済生会病院がオープンしますが、そこで地域のためということで、休日でも緊急の場合に診療を行う予定です。(保健衛生課、消防署)

A かねてより悪臭、排水等で問題があり、地域住民や農家組合、土地改良等の関係者に御迷惑をおかけしてきたところであります。その解決のために養豚業者から日常のご努力をいただいたわけではありますが、都市化の中での根本的な解決をはかるには施設の改善でなく、当該地区からの撤退しかないと合意を得ることができたわけでありませぬ。

◆撤退時期(経営廃止)
関係者は四業者あり、

たのしいお菓子づくり教室 2月20日・北部地区公民館

●クラブ (ほろりん車スクリュー)

●マヌボックスフッキー

といった、手軽に作れて、作りおきができる、しかも栄養満点のお菓子を作ります。

▼日時 2月20日(水) 午前10時～正午

▼会場 北部地区公民館 2階調理室

▼対象 成人一般

▼定員 15人

▼参加費 700円 (当日徴収します)

※当日持参するもの
筆記用具、エプロン

▼申し込み・問い合わせ 北部地区公民館 ☎232-1000

付は2月7日(水)午前8時30分からです

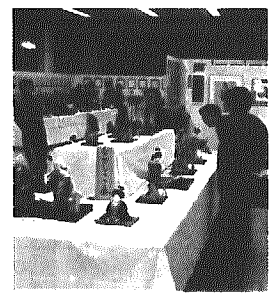


公民館作品展

各種教室・グループの参加者の作品を展示します。今回で6回目です。多数のご来場をお待ちしています。

☎3月2日(土)3日(日) 北部地区公民館

▼出品する教室・グループ 書道、絵画、短歌、生花、版画、水墨画、俳句、編み物、園芸、木目込み人形、簾芸、デッサン教室、煎茶クラブ(3日のみ)



イラスト教室

初心者のためのイラスト教室

☎2月13日～3月20日の
毎週水曜日(6回) 午後7時～9時と美術館見学1回

☎黒崎町公民館(役場分館2階) 基本的知識、テクニクなどを学び、イラストを制作

▼講師 松沢寿重氏(創作美術館学芸員、イラストレーター)

▼受講料 1500円(6回分) 団体教育委員会社会教育課 ☎377-3101代表

※絵具(ポスターカラー)、筆などのないかたは幹旋します(実費負担)。